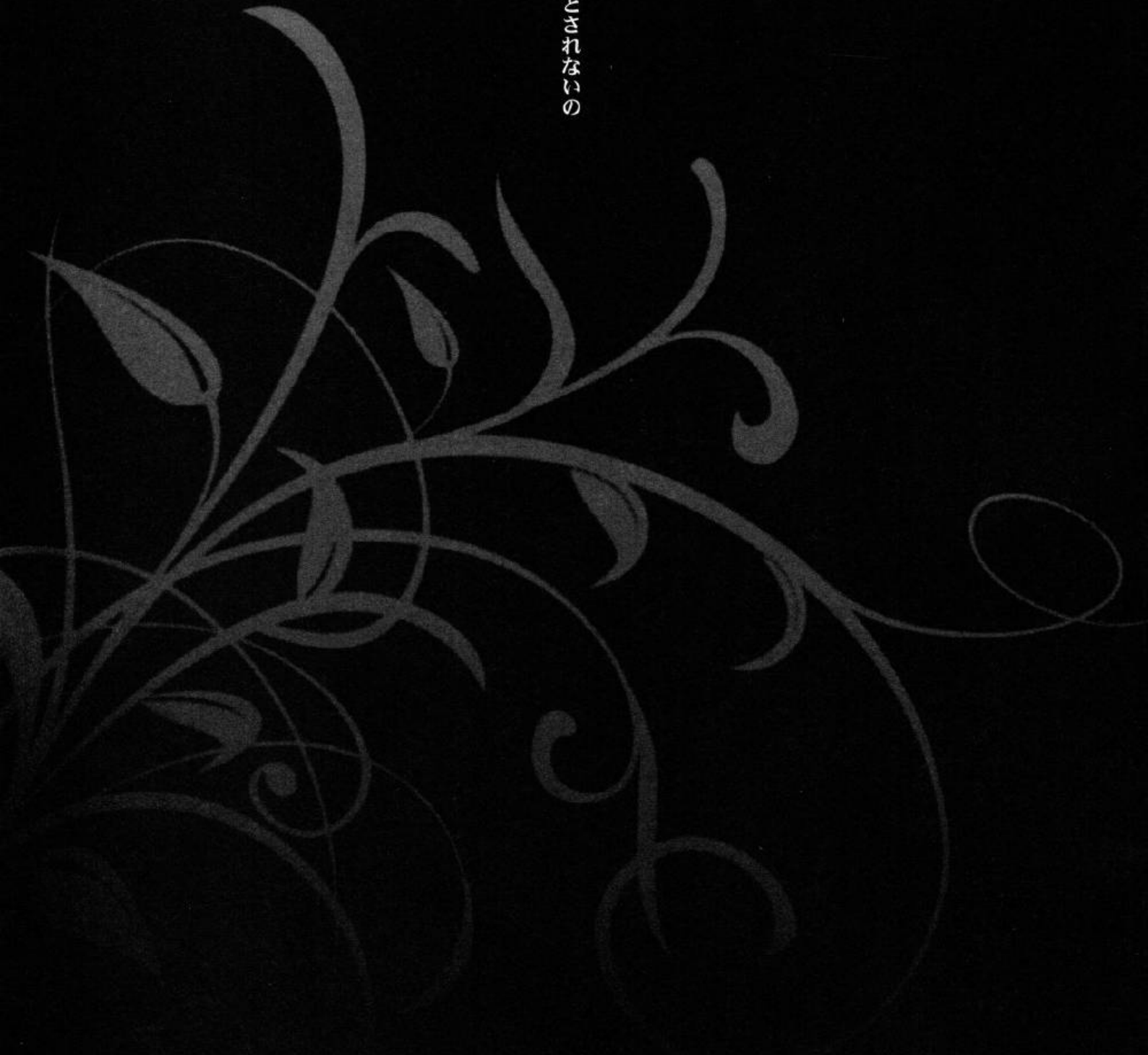




*Nec possum tecum vivere,
Nec sine te.*

R-18

望まれる事項ことに答えられなければ、必要とされないの



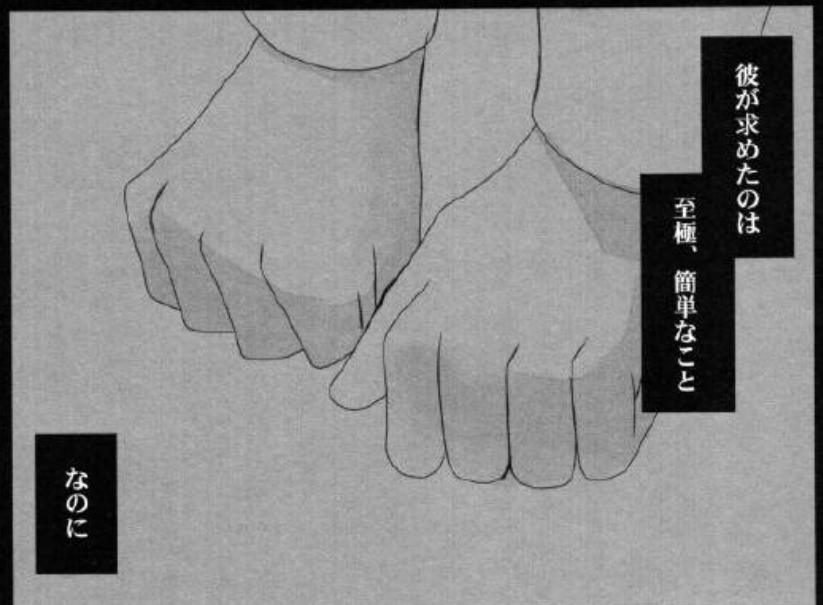


『 モモメノ様、貴女が————— 』



彼の返答に、彼の望むことに
私は応えられなくて

だから、きっと
離れてしまった



彼が求めたのは

至極、簡単なこと

なのに

私は今も、それが出来ずに居る——

Preface

❖ 初めまして、こんにちはの方もいらっしゃるでしょうか？たかしな浅妃と申します。
お手にとって頂き有り難う御座います。

❖ ななどら本もなんだか言いつつ五冊目と相成りました。
今回の本は4月頃に発行したセイブザクイーンの流れを汲んだ話となっております。
既設ではなくても大丈夫なように下記に人物紹介と粗筋を用意してみました。
多分、読まなくても大丈夫だと思うのですが、興味のある方はご一読くださいませ。

❖ 拙い本ですが、最後までお楽しみ頂ければ嬉しいです。



モモメノ

聖声特化のプリンセス。
過去にカザン奪還を試みたギルドの生き残り。
グリオンに勧誘されて、ギルドに加入。



グリオン

防御特化+セイブザクイーン持ちナイト。
モモメノをギルドに勧誘した。
主従関係以上の感情をモモメノに持っている。

カザンを帝竜から奪取し、英雄となったとあるギルド。
そのギルドに所属しているグリオンは戦力不足を埋めようと、ギルドオフィスに足を向けていた。
そこで一人、寂しそうしているモモメノが目に入る。
ギルド管理長のエランから、彼女は貴方達以前に帝竜討伐に向かったが壊滅させられたギルドの生き残りだと聞かされる。
帰ってくるのか判らぬ仲間を待つモモメノを、グリオンは自分のギルドに所属させたい希望し、他のメンバーを説得した。
ギルドに加入させる前に、まずは警戒心を解こうと何度か接触を図るうちにモモメノがグリオンに問う。
「どうして私に構うの？」と。
前ギルドに組んでいたナイトが居た為、同じ職であるグリオンに会う度に仲間のことを思い出し、モモメノは辛いという。
そんな彼女に笑っていて欲しいから。と返すグリオン。
その言葉に泣き出したモモメノを慰める内、なし崩し的に彼女を抱いてしまう。
そんなモモメノがグリオンに出した命令は『傍にいて。一人にしないで』
画してモモメノはギルドに加入することになった。
前ギルドの仲間が帰還するまで、という条件付きで。





平気!!

やめて
これじゃあの時と…
前ギルドとはぐれた時と
全く一緒——



しかし
貴女が疲弊しているのは
傍目から見ても明らかです

ですから——

グリオン



——



へいぎだから
さきに進もう？



心配、してくれてるん…だよね

けど、これは命令



判り…ました
しかしご無理は
なさらぬよう…



本当に大丈夫なの？

うん
ありがとう…



ほ…

怖いの—

この状況も、今のやり取りも
まるであの日の再現のよう

もし…あの日と同じ選択を
したら、今のギルドにも
離れてしまいそうで



だから—



モメメノ

ほ

ほ

ちやうと先の様子見てくるから
お前は少し休んでろ





こんなの杞憂に決まっているのに

皆に迷惑かけて、我が仮言つて

ばかみたい…



足手まといなのは判つてる

自分が限界なもの

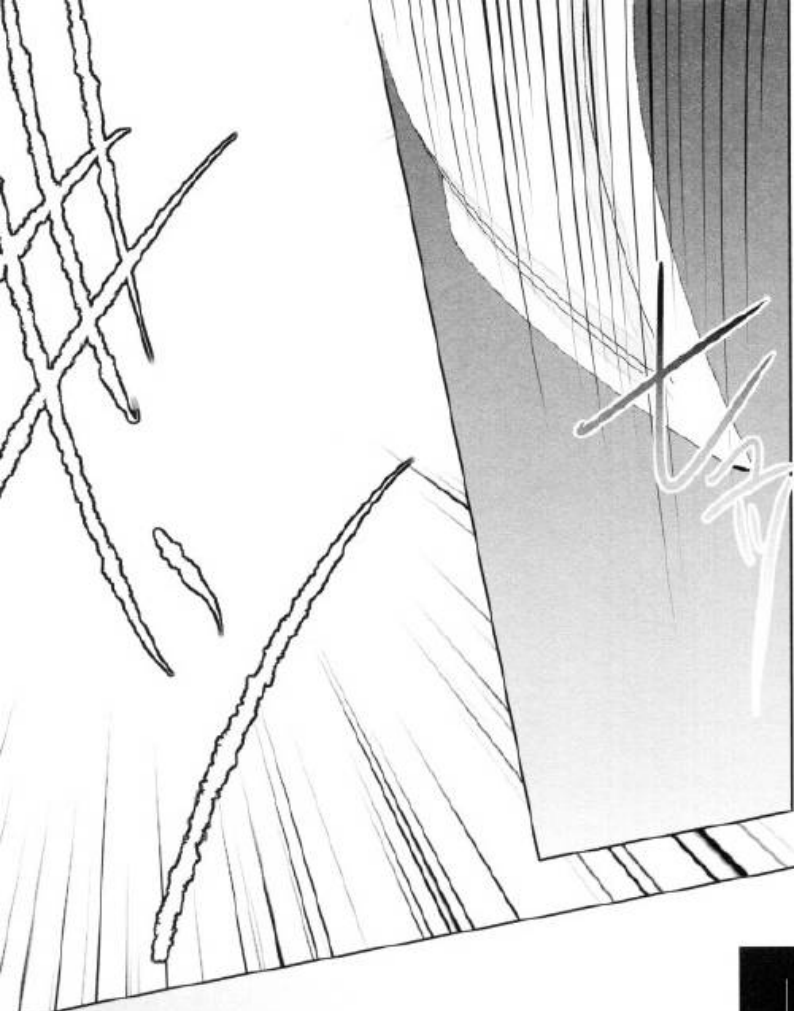


しまった



…あ…

影…?



聞かされたこと……



あ……

——結局

私がどつしたところまで
運命なんて変えられなくて



全部あの日と一緒に



???



怖くて



姫!!
オーダー
ご命令を!!



はあ???

声が出ない



あの時と同じように
何も出来ずに失うの?
またくりかえすの?



そんなの

そんなの、もう二度と――

オーダー
命令!!

我が刃となりて
彼の敵を
打ち滅ぼしなさいっ

――仰せの通り



— 姫っ
ご無事ですか？

お怪我は…う



ひ…め？

— ！…めえ
…な…な…う…う…

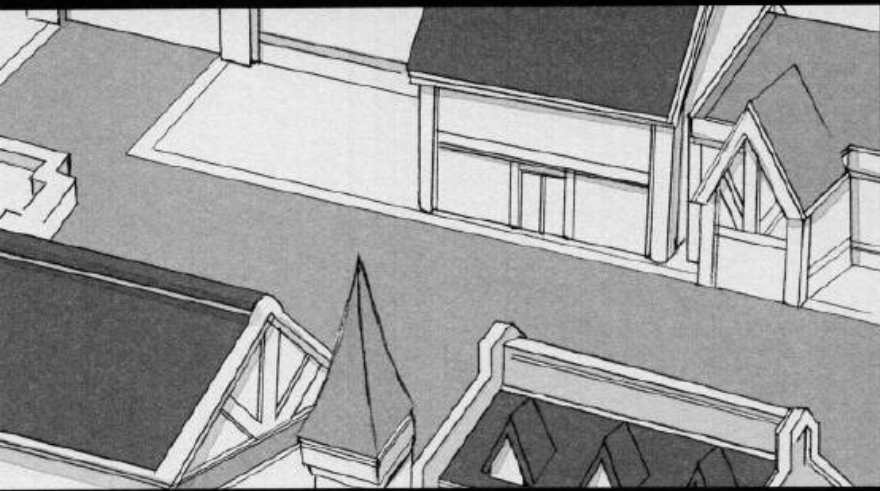


私がつ…ケリオンの
言うとおりにしてれば
こんな怪我しなかった…

またう…いなく、なちちやのかと
おもって…なにも…てきななくて
ごめん、なさい…う

— 姫

私は大丈夫です



姫が不安定になることは
以前から時折あった

けれど



また
いなくなっちゃうのかと

また…か

あれだけ顕著な反応は久々に見た

おそらくは前ギルドに関係ある
何かを思い出したのだろう

結局、今までの話題には
触れず仕舞いだっただけれど

いや



大丈夫ですから



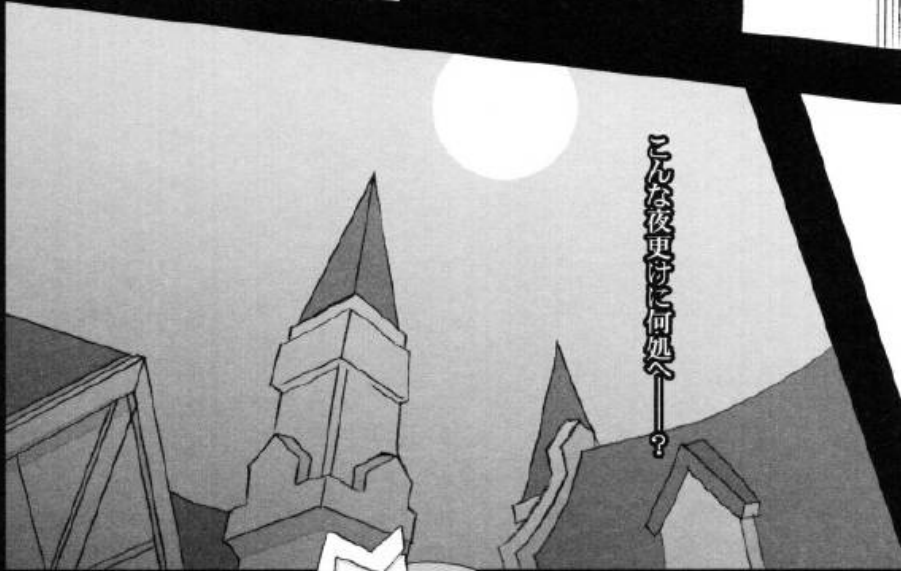


— 姫…？



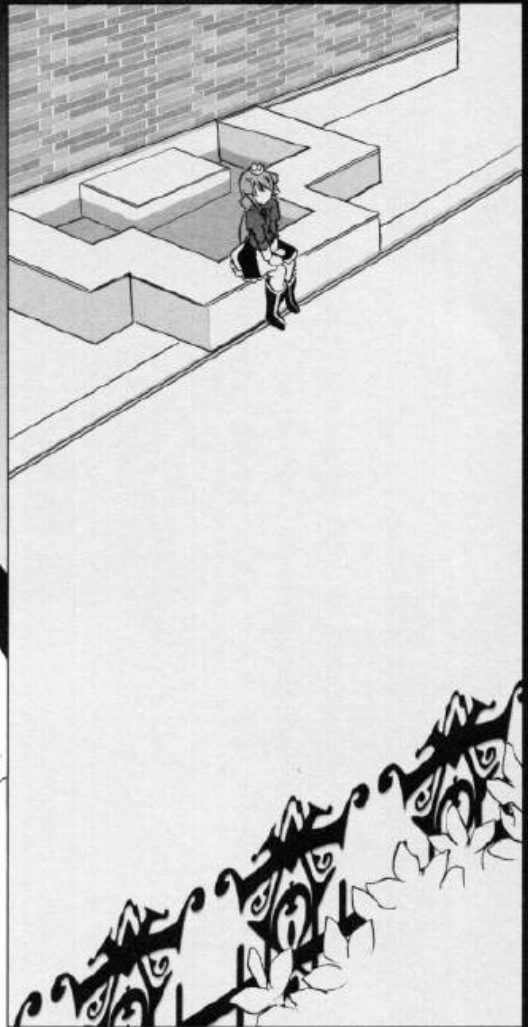
共に居られる時間が有限なのだと
思い知らされるのが

聞きたくないんだ
その話題に触れることで



こんな夜更けは何処へ？

見間違い…じゃない





…もう少しここにいたい

判りましたですが、夜にお一人では危険です

お隣、宜しいですか？

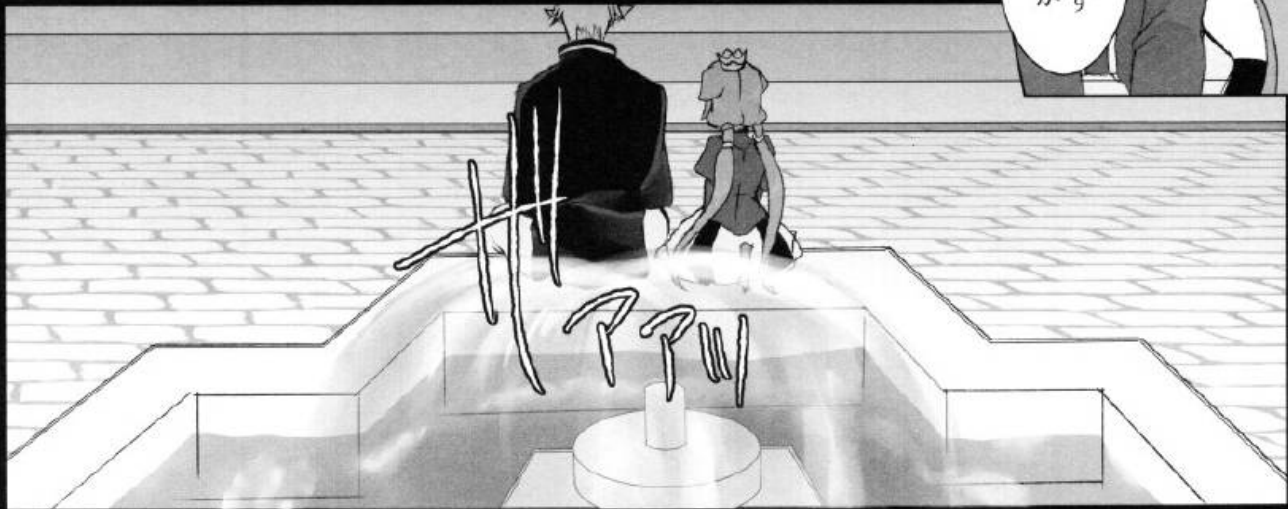
…うん



姫

あ…

夜は冷えます戻りませんか



さあ

何処だったのか…



ね…

グリオンはどこで生まれたの…？



アイゼンで奴隷として働いている…
そこからです

それより前のことはもう—

私の記憶の一番初めは

…？



この屋敷で—



…そう…

私は—ね

ここに生まれたの



ミロスの貴族が
愛人に生ませた娘

それが私

物心ついた時には
母はすでに亡くなっていて
傍に居たのは

ミロスの平等主義を
善しとしない
野心家の父と



アレス



モモメノ様



歌姫だったという
母に仕えていた騎士

屋敷の中がすべての
狭い世界
けどアレスが外のことを
たくさん教えてくれて

いつか私も歌姫になって
世界を巡ってみたいと
そう思ってた

こんな簡単な歌も
歌えないのかっ！

こんなことでは女王はおろか
女王候補になることも叶わんぞ

いめ…なきつ…い

父は私をマレアイアの
女王にする事に
固執していて

歌うことだけを
私に望んだ

次までに何とかしておけ

アレス…
モモじやお姫さまに
なれない…？

そんなことありません

モモスノ様もお母様のような
素敵な歌姫になられます

もう泣き止んでください
お好きな歌を歌えば
嫌なことも忘れられますから

…うん

歌うことは好きだったし
幼い頃はそれが当然だったから
何も思わなかった

だけど
成長するにつれ
疑問が降り積もって

私はどうして歌うの…？





望まれる事項に応えられなければ必要とされない。それだけのこと。





彼の望む歌姫で居なげや

そのうちギルドの皆と知り合つて



仲間に必要なとされるのは
嬉しかった



でも時々、望まれてることに
応えられてるのか不安で

だから一度だけ聞いてみたの

アレスは私に
何を望むの？



彼は…なんて
答えたんですか？

私がおもつたのと
全くちがうと

私、アレスのこと何も判つてなかつた…

だから…離れてしまったのも
しかたなかつた…のかも…



それは—

ね…
グリオンは私に何を望むの？



—う
なに...を



グリオンが望むなら
私できるよ



違います...
私は姫に
このようなと—
どうして...?
前に言っただよね
私のことグリオンのものにしたって...



なに...を?



違う

それについて聞いて…だよね
私…ちゃんとできる…から



こんなことささいな訳じゃ



こんな表情させたかった訳じゃない



…グリオンの
さわるの…はじめて



姫っ…
落ち着いて
私の話を

…





んっ…にが、い…

あ…すみません
口の中で…お嫌でしたよね…



ううん
グリオンの…だから
いやじゃない…

姫…本当にもう
充分ですから—



…
うん…



えうと…だうて

うん…

うん…

うん…これ
いれる…んだよね
ちゃんとしてみる…から



はいつた...?

う...!

ん...は...あ
はいん...



姫の準備が出来てないから
千切られそうなくらいに
キツイ...



姫にこんな無茶をさせてるのは
自分の不用意なあの一言

う...いた...

う...痛いなり
無理をなせりず

いや...



私は、いいから...
グリオンのしたいこと、して...

けれど彼女がここまでして
自分に固執してくれることが
嬉しい



姫...
貴女に痛い思いを
させてまで
したいことなんてありません

はっ



あ...

抜くのも痛い...ですよね...
少し慣らしてましょ



あ...
だ...め...
そ...わ...じ...
...
はっ



あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...



はっ
はっ
はっ
はっ
はっ

そうしないと姫が
痛いままですから
ちよつとだけ
我慢して下さい



みみ...だめ...
やだ...
はっ



気持ちいいみたいです
少しですけれど
濡れてきますし...

はあ...
だ...
さ...
はっ



だめ

まだグリオン
たりない...よ、ね？

大丈夫ですよ
姫...多分もう
抜いても痛くないと
思います

はあ...

ごめんなき...い

...わたし
よこし、ちやっ...た

あーっ
あーっ



わあ...あ
あ...あ...く



わあ...あ
あ...あ...く



ここ、お好きですか？
突くと物凄く締め付けてきて

うあ...あ...
奥...奥...
いい...いい...
いい...突かれて...



姫...
声、抑えて下さい
誰かに見られて
しまうかも



そうです
姫はいい子ですね

...は...ん...ん



わあ...あ...
あ...あ...く
姫は...恥ずかしいと思うと
反応が良くなりますね



私も…っ

ふ…やう…やああ
いく…っ

わたし…っ
いつちや、う…



そんな…こと
ない…っ

そう…ですか？
今も臆内が
ひくひくして…っ

そんなにされると
我慢が…
少しだけ
激しくしますから



はっ
射精します…っ
姫の…臆内に…っ



あ…っ

あ

やあ…やあ…やあ…
ご…ご…ご…
ご…ご…ご…

ご…ご…ご…





もう無理は
なさいなさいアキラ

お連れします



アキラ
??



う...ん



貴女が笑ってくださいのこと
それだけです



姫...こんなことを言っても
信じて頂けないかも
知れませんが

貴女に一番望んでいることは
初めに言った時から変わっていませんよ

な...に?



本当に望まれているのはささやかなことなのに



After words

後書きです。というか内容の補足ページになってしまいました。

普段は、完成した物は読んでくださる方に好きに解釈して頂ければ。と思って語らないようにしているのですが、

今回の本はちょっと補足させて頂きたく思います。

宜しければお付き合い下さい。

今回の目標はモモメノの過去話本。

これの前段階の話になる本を作っていた時には、続きの話を描くかどうか怪しいな。と感じていたので、

あまり先のことを考えずに描きたいように描いたのですが、それが今になって仇になりました。何となく予想はしていたのですが…。

も一つの目標はモモメノに攻めさせたいというのがあったのですが、失敗してる気がします(´・ω・´)

序盤しかイニシアチブ握れてませんね。

グリオンの方は意思薄弱っぷりが浮き彫りになってますが、

まあナイトと言えども健全な成人男性なんであんなもんかと思ってやって下さい(笑)

本文中設定の補足です。

モモメノの設定ですが、資料集を見てもミロスに貴族階級が居ないとは何処にも書いていなかったのではのような設定にしました。

騎士階級があるなら貴族階級もいるはず。王制だしな！

ミロスの徹底した平等思想は、ゲーム中いい感じに薄ら寒かったです。

上昇志向の人とか野心家の人には、さぞ居心地の悪い国だろうなあ。等と考えて出来たのがモモメノの父親です。

マレアアの女王選出方法も本編では不明瞭でしたが、実力主義のようなので出自は多分関係ないのでしょうね。

だったら、自分の娘を女王に！と思う人が居ても不思議はないかな、と。

女だけの国とは云えども、腐っても一国の主。女王の血族にもそれなりの権力と威光が得られる…はず？

そんな理由で、父親はモモメノをプリンセスにしたかった、と。

本文中でもっとそこを掘り下げたかったのですが、

只でさえぶれてる主軸をこれ以上ぶれさせてはならぬ！という判断から切りました……。

最後までお付き合い頂き有り難う御座いました。

もし感想等御座いましたら、メールや拍手などでお教え頂ければ嬉しいです。

それでは 願わくばまたいつかお会い出来ることを祈って。



姫の語った騎士かに、自分を見てしまう



自分の姫のことが



きっと、多分…彼も



所詮望んでも叶わぬ想いなのだと、そう言われた気がした

けれど——それでも構わない

彼女が自分の存在を望むなら、それに応え続けよう



いつかこの手を離す、その時まで



Nec possum tecum vivere, Nec sine te.

私は貴女と共に生きていけない。けれど貴女なしでは生きられない。

Date of issue: 2009/12/31
Produced by: JYUNGINBOSHI
Publisher: Asahi Takashina
Print office: Kanazawa Printing

2ndsilver@gmail.com
<http://7th.x0.fc/~slv/>

成人向けにつき、未成年者の購読・閲覧・所持を禁じます



*Nec possum tecum vivere
Nec sine te.*

7THDRAGON FANBOOKS*05

2 0 0 9 1 2 3 1

Asahi Takashina Presents

[JYUNGINBOSHI]